

5 CoRE & CDL TIMES



発行日：2019年4月1日（季報）

鳥取大学CDL リニューアル！

より使いやすくなりました！

2017年10月、鳥取大学正門入ってすぐの広報センター1階にできたコミュニティ・デザイン・ラボ。これまでロッカーが増えたり、芝生スペースができたり、ウッドデッキができたり、皆様にとって、より便利になるように変わってきましたが、この度、CDL内に県木を使った大きな壁を設置いたしました。入口側から正面に設置された壁にプロジェクターが映り、これまでより身近な距離で登壇者の話を聞くことができます。さらにこの新しい壁面はホワイトボードにもなっているので、プロジェクターに映した映像に文字や絵を描きこんだりも可能。これからも多くの皆様に使っていただきたいと思います。



これまでのCDLの活用方法についてはCoRE&CDL TIMESでチェックできます。バックナンバーは機構HP(4Pに詳細)トップから「機関誌・ラジオ」の項目より読むことができます。



そもそも、鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ（CDL）って何ですか？

地域価値創造研究教育機構による様々な活動をスムーズに、活発に行っていくための拠点です。地域の住民、学生、教職員など様々な立場の方が鳥取大学の知財を使った協働を目的に無料で使用することができます。

その他、貸切予約がない時は、プチミーティングや自習、休憩などが予約や登録なしでしていただけます。飲食も持ち込み自由です。コーディネーターも在室していますので気軽にご相談ください。

2019
2.1～
2.28

タウン誌『スペース』とその書き手・徳永進 ～ 本とその資料展 ～ IN 鳥取大学

1978年から1997年まで19年にわたり、鳥取の街の今を書き紡いできたタウン誌「スペース」と、その関連の資料の展示を、鳥取大学附属図書館と合同で1ヶ月間開催しました。附属図書館では「スペース」本誌や初期の書き手であった徳永進関係の展示を行い、CDLでは、連載書家の網師本日海さんの書の展示や、表紙の人形作家 大岩明彦さんのなべ展、徳永進さんや後藤繁栄さんのインタビュー映像など、スペース関連の美術作品を中心に展示しました。2月14日には「タウン誌スペースを語る」と題し、元スペース編集長の安藤隆一氏、本学地域学部 小笠原拓准教授（「スペース」の会世話人）、長崎県立大学 鈴木暁彦教授（元朝日新聞鳥取支局、元スペース執筆者）によるトークイベントを開催し、30名近くの方にご参加いただきました。



2019
2.9

H30年度後期 全学共通・教養科目 主題（世界と地域） / COC+地域創生推進プログラム科目

「デザインプロジェクト」公開講評会



「地域資源が人を呼び込む街～恩返しプロジェクト～」, 「交流拠点としての駅」, 「学生が住む街」をテーマに、それぞれ3組の学生チームが研究の成果報告を行いました。

2月9日、鳥取県立図書館2階大研修室で地域連携PBL授業「デザインプロジェクト」の公開講評会が行われました。「デザインプロジェクト」は、地域課題解決に挑み中で実践的なスキル向上を目指す科目です。昨年10月の開講以来13名の学生が「鳥取駅前の5年後・10年後を考える」をテーマに問題分析を行い、課題解決策を検討してきました。その成果をまちづくりの関係者や市民の方々に対して発表し、このテーマに関する意見交換をすることを目的に開催されました。第1部では、地域価値創造研究教育機構 地域連携PBL推進室の成清仁士准教授による授業概要と対象地域の説明後、受講学生による成果発表と質疑応答を行いました。発表に対しては、専門家アドバイザーとして授業に参画して頂いた鳥取出身の3名の方、そして千葉県柏市で先進的なまちづくりに取り組む三牧浩也氏に講評を行っていただきました。第2部では、「まちの未来の描き方」をテーマに三牧氏にご講演いただいた上で鳥取のまちづくりについてディスカッションしました。



指導陣

担当教員

- 成清仁士
鳥取大学地域価値創造研究教育機構
地域連携PBL推進室 室長/准教授

講評・講演

- 三牧浩也氏
柏の葉アーバンデザインセンター 副センター長
(一社)UDCイニシアティブ 理事
㈱プラスエム計画室代表、東京大学非常勤講師

専門家アドバイザー

- 川崎富美氏
プロダクトデザイナー
FUMI KAWASAKI DESIGN
- 小谷真之介氏
グラフィックデザイナー
(有)小谷デザインオフィス
- 野崎俊佑氏
建築家
NOZa-maru、一級建築士

2019
2.13
2.22

鳥取大学エッジ

TORIDAI EDGE

鳥取大学COC+事業の一環であり、地域に生活する多様な人々が集う場として企画したTORIDAI EDGEが2月13日と22日の両日、鳥取大学CDLで行われました。TORIDAI EDGEは「TORIDAI EDGE Cafe」と「TORIDAI EDGE Talk」から構成されており、各回CafeとTalkを共通のテーマで開催します。Cafeは詳しい人から聞いて物事を知る場であり、Talkは学んだことや自身の経験を基に参加者同士で語る場です。今回は「地域資源をどう生かすか？」を共通テーマとし、地域学部の大元鈴子 准教授に、食品のローカル認証についてその概要と地域資源の価値創出事例を、大学院連合農学研究科の児玉基一郎 教授に鳥取大学ローカル酵母プロジェクトについてそれぞれご紹介いただきました。この聴講を踏まえ、Talkでは参加者によるグループワークを行いました。



鳥取大学エッジカフェ
EDGE
TORIDAI EDGE Cafe

2019.2.13



清水准教授による主旨説明



大元准教授「ローカル認証」について



児玉教授「ローカル酵母プロジェクト」について



鳥取大学エッジトーク
EDGE
TORIDAI EDGE Talk

2019.2.22



CafeとTalkの両日参加の方も多かったです。



ローカル酵母をどのように利用すればよいかを皆で話し合いました。



議論の内容をまとめ、グループの代表が参加者に紹介しました。

2018
12.16~

地域と大学をつなぐ、鳥取をもっと好きになるラジオ。

鳥取大学 CoRE ラジオ

MC：山下弥生さん (FM鳥取)
濱井丈栄さん



誰でも気軽に聴くことができるラジオ番組を通して、もっと地域と大学をつないでいきたい！鳥取をもっと好きになってもらいたい！そんな想いで鳥取大学CoREラジオの放送を行っています。放送は毎回、鳥取大学の個性豊かな先生をお迎えしてお届けしています。

vol.6 ゲスト:井上和興先生

第6回目のゲストは、鳥取大学医学部地域医療講座講師の井上和興先生。患者さんとの対話を大事にした臨床医としての総合診療医についてのお話や、専門分野を超えた、学内でのコラボのお話、さらには研究者、教育者という立場で行う地域連携プログラムのお話をわかりやすく語っていただきました。



ON AIR 12月16日(再放送 12月23日・30日)

vol.7 ゲスト:児玉基一郎先生

第7回目のゲストは、鳥取大学大学院 連合農学研究科 副研究科長・教授である児玉基一郎先生。趣味である温泉の話から始まり、梨の葉やトマトにみる植物病理学研究のお話、酵母の研究から商品開発に至った、桜の酵母を使用した「酵母ビール」と、「梨のシードル」についてのお話を語っていただきました。



ON AIR 1月6日(再放送 1月13日)

vol.8 ゲスト:谷口美也子先生・堤晴彩先生

8回目のゲストは、鳥取大学地域価値創造研究教育機構 (CoRE) に新しく着任した「地域連携URA」の谷口美也子先生と堤晴彩先生。谷口先生はご専門である認知症の研究やワークライフバランスについて、堤先生はご専門の木材の強度についての評価方法について、そしてお二人の今後の活動についてお話をいただきました。



ON AIR 1月20日(再放送 1月27日)

vol.9 ゲスト:齊藤忠臣先生

9回目は鳥取大学CDLにて公開収録が行われました。ゲストは、農学部生命環境農学科 地圏環境保全学分野 准教授の齊藤忠臣先生。乾燥地の環境・農業の問題を「水・土・緑」の観測から解決する研究や、鳥取砂丘のオアシスとドローンを使った研究の話などをお話いただきました。



ON AIR 2月3日(再放送 2月10日)

vol.10 ゲスト:白石秀壽先生

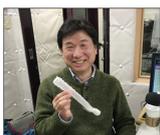
10回目のゲストは、地域学部地域学科 地域創造コース 講師の白石秀壽先生。CDLで公開収録で行われました。ローカライズされるフランチャイズのマーケティング研究の話や、地域内からボトムアップされて生まれるムーブメントを、鳥取の隼駅の実例や海外への日本酒マーケティングを基に話していただきました。



ON AIR 2月17日(再放送 2月24日)

vol.11 ゲスト:清水克彦先生

第11回目のゲストは、鳥取大学地域価値創造研究教育機構 エクステンション推進室長の清水克彦 准教授。大学の機能を拡張する生涯学習プログラムの話や、ご自身の研究である、深海に住む海綿生物「カイロウドウケツ」と、その研究から清水先生が発見したタンパク質「グラシン」の話などをお話していただきました。



ON AIR 3月3日(再放送 3月10日)

vol.12 ゲスト:前波晴彦先生・成清仁士先生

12回目のゲストは、地域価値創造研究教育機構より、このCoREラジオを企画した地域参加型研究推進室長の前波晴彦 准教授と、地域連携PBL推進室長の成清仁士 准教授のお二人。あらためてCoREラジオを始めたきっかけのお話や半年間の放送を振り返った感想、そしてお二人の専門分野のお話を話していただきました。



ON AIR 3月17日(再放送 3月24日・31日)

第1回から第12回の内容はこちらから聴くことができます。

<https://www.core.tottori-u.ac.jp/category/journal/>

2019
3.15~
4.14

主催：NPO ツナガルドボク中国

Cement Meeting!

作品展示 Cement Meeting! exhibition

2019.3.15~4.14 at 鳥取大学CDL



建設業界で活躍する安田瑛紀氏、山根正樹氏と、ファッションスタイリスト石原愛子氏、富山大学芸術文化学部の学生岡田歩氏を迎え、セメントを主軸としたトークイベントが3月15日、CDLで開催されました。鳥取大学学生がメンバーであるNPOツナガルドボク中国が主催し、「セメントとコンクリートの違いは？」という話から、各ゲストによる自身の活動についてのお話を、来場者は興味深く聞いていました。



とっとり県民カレッジ連携講座 鳥取大学サイエンス・アカデミー

会場：鳥取県立図書館2階 大研修室 時間：10:30~12:00

「地域をフィールドとした実践的な学び」

1/26 「にんげん研究会」の冒険：移動するゼミによる居候型サテライト・キャンパス
地域学部附属芸術文化センター 教授 五島 朋子・うかぶ LLC共同代表 蛇谷 りえ

地域でアート・プロジェクトやまちづくりに取り組む活動団体と、鳥取大学地域学部の複数ゼミが連携し、調査研究やイベント運営を「居候型サテライト・キャンパス」(戦略3取組1「山陰の地域課題研究を通じた人口希薄化社会のための新たな価値発見・創造のための教育研究プログラム」)として実践してきました。発表では、その活動の中から、湯梨浜町松崎にある文化交流促進型ゲストハウス「たみ」を拠点に、学生だけでなく、広く社会にも公開して実践した「にんげん研究会」の3カ年の活動を、コーディネーターの蛇谷りえさんとともに振り返りました。

2/9 地域課題プロジェクトを通じた学び
地域価値創造研究教育機構PBL推進室 准教授 成清 仁士

変化する時代において、高等教育においても様々な問題に対応できる実践的な能力の育成が求められています。地域課題プロジェクトの実践から学んできた実体験や、鳥取大学におけるプロジェクト学習の取り組みを紹介されました。これから大学を目指す高校生や、更なる学びの機会を得たい社会人の方々が多く来場されました。

2/23 「レコードからたどる《貝殻節》の歴史—浜村温泉と賀露に着目して—
地域学部地域学科人間形成コース 准教授 鈴木 慎一郎

《貝殻節》は、浜村温泉、賀露、青谷、泊、橋津、妻波等に存在し、音楽も歌詞も異なり、民謡の地域性の特徴がみられます。今回は、レコードの発売とともに普及をした浜村温泉と賀露に着目し、学生との共同調査によって入手した貴重な音源資料を交えながら、お話しできました。

ライブ中継による聴講ができます!

米子市立図書館・倉吉市立図書館・琴浦町図書館・加藤文太郎記念図書館・南部町立法勝寺図書館

新シリーズ

「平成の科学技術の進歩」

シリーズ前編 ライフサイエンス編

3/23 地域価値創造研究教育機構 エクステンション推進室
准教授 清水 克彦

4/13 研究推進機構 研究戦略室
教授 難波 栄二

5/11 医学系研究科 機能再生医科学専攻
遺伝子再生医療学講座
准教授 白吉 安昭



「平成の科学技術の進歩」シリーズ後編は、テクノロジーサイエンス編をお送りします。



CoREの活動やイベント情報も盛りだくさん!

CoRE 地域価値創造研究教育機構 のHPができました!

<https://www.core.tottori-u.ac.jp>

当サイトより会員登録をされますとCDLの利用について、簡単に申込みが可能となります。是非ご活用ください。

トップページ→「CDL」→「CDL会員のご案内・利用申し込み」

コミュニティ・デザイン・ラボとは?

地域価値創造研究教育機構による様々な活動をスムーズに、活発に行っていくための拠点です。地域の住民、学生、教職員など、様々な立場の方が協働を目的に使用することができます。

平日9時30分から18時までで専用予約(貸切)がない場合は、随時自由に入室し、空いている席で打合せや雑談、休憩等をしていただけます。

CDL コミュニティ・デザイン・ラボ

所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地
(鳥取大学正門入ってすぐ 広報センター内)

TEL: 0857-31-5870

Mail: chi-cdl@ml.adm.tottori-u.ac.jp